

コメント

1. 感染性胃腸炎

定点当り11.7人とほぼ横ばいとなっていますが、依然として例年同時期と比べ報告数が多くなっています。安芸区では24.5人と特に多く、東区16.3人、佐伯区13.3人、南区12.0人、中区11.7人となっています。

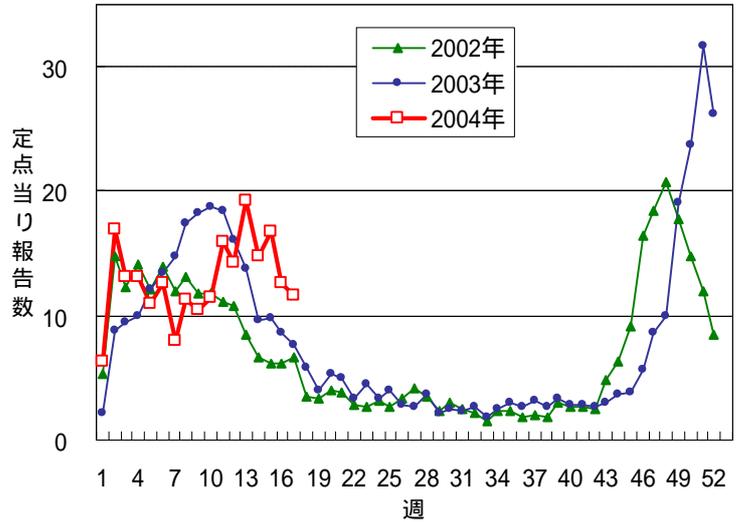
2. インフルエンザ

定点当り1.95人と報告数は少ないものの3週続けて増加しています。

3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当り1.50人とやや減少しています。安芸区では4.5人と特に多く、佐伯区3.3人、東区2.3人となっています。

感染性胃腸炎



5類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均 過去4年間 (注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均 過去4年間 (注1)	発生記号
インフルエンザ (注2)	72	1.95	0.31	↗	麻疹 (注3)	-	-	0.17	
咽頭結膜熱	6	0.25	0.03		流行性耳下腺炎	9	0.38	0.76	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	1.50	1.19	↘	RSウイルス感染症	-	-	/	
感染性胃腸炎	280	11.67	6.87	↗	急性出血性結膜炎	-	-	0.07	
水痘	49	2.04	2.10	↗	流行性角結膜炎	8	1.00	1.16	
手足口病	1	0.04	0.18		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	3	0.13	0.38		無菌性髄膜炎	-	-	-	
突発性発疹	17	0.71	0.85		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.32	
百日咳	-	-	0.01		クラミジア肺炎 (注4)	-	-	-	
風しん	1	0.04	0.05		成人麻疹	-	-	0.04	
ヘルパンギーナ	5	0.21	0.08						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15~2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1~1.5の増減
横ばい	↔		ほとんど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)
小児科定点数 24
眼科定点数 8
性感染症定点数 9
基幹定点数 7

(注1) 過去4年間の同時期平均 (定点当り)
(注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く
(注3) 成人麻疹を除く
(注4) オウム病を除く

1類 ~ 5類感染症報告状況 (全数把握対象分)

類型	疾病名	報告数	累積	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	西区・男性(19歳)・O157
5	後天性免疫不全症候群	2	6	男性(34歳)・無症候性キャリア、男性(22歳)・無症候性キャリア

5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

報告数	広島市	第13週 第14週 第15週 第16週 第17週	インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(注3)	成人麻しん
			定点当り	広島市	第13週 第14週 第15週 第16週 第17週	1.30 0.62 0.95 1.46 1.95	0.42 0.58 0.38 0.46 0.25	1.92 1.08 1.29 1.92 1.50	19.17 14.83 16.75 12.54 11.67	1.96 1.96 2.13 1.21 2.04	0.04 0.04 0.04 -	0.46 0.29 0.54 0.54 0.13	0.92 0.88 1.04 0.83 0.71	- 0.08 -	- 0.08 0.13 0.08 0.21	0.33 0.08 0.17 0.46 0.38	0.29 0.08 -	0.21 0.33 0.04 0.04 -	0.38 0.33 -	0.63 1.00 1.25 1.13 1.00	- 0.14 -	- 0.14 0.43 -	0.29 -
	全国	第15週 第16週	0.35 0.32	0.25 0.31	1.34 1.79	6.65 7.22	2.01 1.84	0.05 0.07	0.38 0.49	0.71 0.79	0.01 0.01	0.06 0.08	0.05 0.08	0.02 0.02	0.69 0.66	- 0.02	0.03 0.87	0.86 -	0.01 0.03	0.03 0.12	0.11 0.01	0.02 -	- -

(注1)高病原性鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者年齢	性別	住所	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	0	男	東区	2004/04/08	咽頭拭い液	インフルエンザB型
インフルエンザ	5	男	西区	2004/04/15	咽頭拭い液	インフルエンザB型
咽頭結膜熱	1	女	東区	2004/03/10	咽頭拭い液	アデノウイルス1型
感染性胃腸炎	0	女	南区	2004/03/16	糞便	ロタウイルス (A群)
流行性耳下腺炎	8	男	佐伯区	2004/03/18	髄液	ムンプスウイルス
発疹症	1	男	熊野町	2004/03/09	糞便	エコーウイルス18型
扁桃炎		不明	南区	2004/03/14	咽頭拭い液	アデノウイルス3型
不詳	2	男	安佐南区	2004/04/11	咽頭拭い液	インフルエンザB型

【参考】風しんと先天性風しん症候群

風しん

「三日ばしか」として古くから知られている、発熱、発しん、リンパ節腫脹を主徴とする発しん性疾患です。風しんウイルスの飛まつ感染によって起こります。一般には、小児期の感染症として比較的軽症で経過し、終生免疫になります。稀に、血小板減少性紫斑病や脳炎などの重い合併症を併発することがあります。一般に大人は子供より重症になる場合が多いといわれています。

先天性風しん症候群

女性が妊娠初期に風しんに感染すると、流産あるいは新生児に難聴、白内障、心奇形などの先天性異常、いわゆる先天性風しん症候群を起こす場合があります。

風しんは1998年以前は、春から夏にかけて流行を起こしていましたが、1999年以降は大きな流行はなく小規模な発生にとどまっています。これは、1994年に予防接種法が改正され、風しんの流行を抑える目的で、小児(生後12ヵ月～90ヵ月未満)を対象に予防接種が行われており、その効果が現れているものと考えられます。

しかし、今年になってから国内の一部の地域(群馬県、大分県、鹿児島県、宮城県、埼玉県、栃木県など)で風しんの報告数が多くなっています。現在広島市では風しんの患者は散発的に発生している程度ですが、今後の動向に注意が必要です。

風しんの免疫を持たない女性で妊娠可能な年齢期にあたる方は、先天性風しん症候群の発生が危惧されます。妊娠の予定のある方で、風しんにかかったことがなく、予防接種をまだ受けていない方は、妊娠していないことを確かめ予防接種を受けましょう。なお、予防接種後最低2ヵ月間の避妊が必要です。現在、中学生から25歳前の方は免疫のない人が多いと考えられており、特に注意が必要です。

本週報は、インターネットでもご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

なお、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2004年第17週 (4月19日～4月25日)